

首都圏初 PC
 浄化処理(溶融)
 処理対象物質は、PCB
 (複合)
 REFULE
 http://www.refule.co.jp

週刊 循環経済新聞

The Recycling Economy Times

9月27日 No.1026
 2010年(平成22年)
 週刊 月曜発行
 発行人 河村 勝志
 平成元年9月22日 第3種郵便物認可
 送料 年間 24,000円 (前納)
 1部 520円

工法「QBカットオフ工法」を開発、医療施設と近接する施工条件下で実施した。
 一般的に高層ビルや超高層ビルの解体工法は、圧砕用重機を建物の最上部に設置し、上部から一層ごとく解体

無機材料から土壌固化材

アースコーポ

アースコーポ(岐阜県大垣市、田中龍博社長、☎0584・74・4444)は、天然資源の無機材料(碎石)に特殊加工を行った土壌固化材(アースライム)を開発した。短時間で地面の強度を増すことができることから、建設建築工事における現場など、軟弱地盤を改良できる土木新工法として用いられている。

同製品の特長は、セメントを使用しないこと

んの発生を大幅に低減できるのが最大の特長だ。解体の大部分を占める切断作業にワイヤソーなど騒音・振動の小さい機械を用いる。建物最上階で圧砕用重機を使用しないため、振動がほとんどな

いため、下階で並行して内装や設備配管類解体、床スラブの先行切断、解体ブロック用支保工の移設作業が可能。これにより、大幅な工期の短縮ができる。耐震安全性を確保しながら、先行で柱

建物であれば、従来工法と比較して15%以上の工期短縮の効果が期待できるとしている。コスト面においては、60以上の高さの建物であれば従来工法と同程度の費用で施工可能となっている。

とから、繰り返しの再掘削が容易で、締め固めの再現性が可能な点にある。また、必要強度が得やすく養生が不要で施工後直ちに次工程への着工が可能で工期の短縮、コスト削減につながる。降雨などによる水にも強く、浸透性も優れており、ぬかるみや泥化しにくいなどといった特長を持つ。

再生碎石の敷設現場が調査結果を公表
 埼玉県
 埼玉県は9月8日、さいたま新都心の再生碎石敷設現場で行った石綿含有建材混入の有無の調査結果を公表した。同現場「第8-1A」街区の約3300平方メートルに、石綿含有建材の破片183個を確認。また、大気環境中のアスベスト濃度について調査した結果、

県内の大気中平均アスベスト濃度と比較して同等以下の0.1本/リ未満だった。混入状況の調査は先月27日、12人体制(行政関係職員6人、県環境科学国際センター研究員3人、県産業廃棄物協会会員企業3人)で実施。再生碎石が敷設された敷地全面を目視で調査。疑わしいものを含め291個を持ち帰り、県環境科学国際センターで顕微鏡などを用いて繊維末を確認した。その結果、2-3ミクロン程度の破片183個(重量1074ミリグラム)で混入を確認した。大気環境調査は先月28-30日にかけて再生碎石の敷設現場4カ所で行われた。